

伝記を多読し、「偉人誌」を作ることを通して、
偉人の生き方に触れ、これからの自分の生き方について考える。

第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 吉川 奈津子

1. 単元名 偉人の人生、わたしの人生。

2. 学習材 「伊能忠敬」(教育出版 ひろがる言葉 6年国語下)
『週刊朝日漫画世界の偉人シリーズ』(朝日新聞出版)

3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第5学年及び第6学年〕の「C 読むこと」における以下の能力を身に付けることをねらいとしている。

C 読むこと

内容 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

言語活動例 イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

本単元では、学習材「伊能忠敬」を読み、伝記の特徴を理解し、偉人の人物像や生き方を具体的に想像する。そして、偉人の人生を年表に整理し、自分の考えを書く活動を行い「偉人誌」としてまとめていく。

これらの学習を通して、伝記から偉人の人生を読んだことをもとに自分の生き方について考えを広げることがねらいとする。

(2) 単元の目標

【知識及び技能】

○文と文の接続の関係や「その偉人の会話や行動、心情などその人の人生が書かれている」という特徴を理解して、伝記を読むことができる。(1 (1) カ)・・・㊦

【思考力、判断力、表現力等】

○自分が選んだ偉人について、事実と感想や意見などを区別して書き、「偉人誌」に自分の考えが伝わるように書き表すことができる。(2B (1) ウ)・・・㊧

○伝記を読んで、その偉人の人物像や物語を想像し、自分の生き方について考えを広げることができる。(2C (1) カ)・・・㊨

【学びに向かう力、人間性等】

○学習の見通しをもち、進んで伝記を多読して多様な生き方を知り、それを基に自分の生き方についての考えを広げようとしている。・・・㊩

(3) 指導観

〔見いだす〕

□本単元(本時等)の目標(めあて・ねらい)を児童に明示する。

①単元の目標を知り、学習の見通しをもつことで主体的に学習する態度を引き出す。

本単元の導入では、教科書の学習材「伊能忠敬」を読み、伝記とはどういう特徴がある文章なのかを理解する。そして、伊能忠敬で作成した教師モデルの「偉人誌」を提示する。教師モデルには、伊能忠敬の人生年表、エピソードからすごいと思ったことや共感できること、忠敬の気持ちなどを吹き出しにして年表に書き込んでおく。「偉人」と聞くと子どもにとって遠い存在のように感じるが、教師モデルで偉人に共感する点や自分の生活に関わるエピソードを書くことで、少しでも偉人の生き方を身近に捉えながら学習できるようにする。偉人の人生のどこに共感するか、どんなことを考えるかは人それぞれであるため、それがわかるように吹き出しを用いる。また、裏表紙には編集後記を書く。ここには伝記を読んで、偉人の生き方や自分の生き方について記していく。この編集後記を書くことによって、偉人の人生に触れたことを踏まえて、自分の人生についての考えを広げられるようにする。

一人一偉人を決め、同じように「偉人誌」を作成する。そのため導入時に、教師モデルを参考にしながら子どもたちと一緒に読み進め、学習内容をイメージさせることで、どんなことを書くのか、どんな工夫をして書けばいいかなどを意識させる。そして、単元全体の学習の見通しをもたせ、主体的な学びにつなげていきたい。

〔自分で取り組む〕

□児童自ら情報を収集し、調べることができるように環境等を用意している。

②漫画も含めた伝記に関する本を用意し、たくさんの伝記の本や偉人の人生と出合える環境をつくる。

伝記を学習するのは今回が初めてになる。そこで子どもが伝記にすぐ触れられる環境を整え、多読に繋げていくために学校図書、『週刊朝日漫画世界の偉人シリーズ』や館山市図書館から借りた伝記の本を学年の廊下に「伝記図書館」として設置する。伝記と聞くと、長く読みにくいというイメージがあり、それを子どもたちも感じていることが考えられるが、漫画も取り入れることで読むことへの抵抗感も減らすことができると考える。また、漫画だけでなく、教科書の学習材である「伊能忠敬」のような文章も同時に読ませることで、伝記とは何かを理解させていきたい。また、自分が読んだ伝記とその偉人がどんな人だったかを多読していく中で記録できるように「音読カード伝記版」を用いることとする。

〔自分で取り組む〕

□児童が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に形成したりする時間を設ける。

③「偉人誌」を作成する際に、自分の考えが表現しやすい方法を選択させる。

「偉人誌」の作成は、タブレットでつくるか手書きにするかは子どもに選択させる。手書きにする方は、用紙を表入りのもの・罫線が入っているもの・白紙など自分で書きやすいものを選択できるように用意する。また、まっすぐ字を書きたい子の支援として、罫線入りの下敷きも用意しておく。加えて、偉人のイメージを色でも表現できるように、用紙も何色か用意し、ペンも自由に選択させながら作らせる。また、タブレットでつくる方は、Wordで作成することとするが、こちらも枠をあらかじめ作ってあるもの・一から自分で設定しながら作成するものと子どもが選べるようにしておく。吹き出しに関しては、用紙と同様、色も選択させるとともに、書き方も(ア)自分で直接書き足す(イ)付箋紙を使う(ウ)Wordの機能を使う、いずれかから自分の書きやすいものを選択させる。書き方の工夫やレイアウトなど、選択できる環境を整えておくことで、自分の偉人に対する思いを表現しやすいようにする。

〔広げ深める〕

□児童が多様な考えを理解できるように、お互いに学び合う場を設定する。

④自分で決めた偉人の「偉人誌」をお互い読み合い、自分の考えや今後の生き方について交流し、考えを広げる。

自分が選択した偉人の「偉人誌」が完成したら、ライティング・カンファレンスの手法を用いて考えや感想を交流する。ライティング・カンファレンスでは、質問を通して、作成した「偉人誌」から自分が偉人に対して考えたことや自分の生き方を振り返る時間にしたい。また、友達の選んだ偉人の生き方やそこから考えたことに触れる機会にもなるため、交流を通して、生き方についての多様な考えを聞き、これまでの自分の生き方と比べながら考えを広げるきっかけにさせたい。

〔まとめあげる〕

□児童が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定する。

⑤国語日記を書くことに加え、単元の最後に3観点で自分の学習について振り返らせる。

国語日記(わかったことや学習の中で工夫した点)を単元中に随時書かせるようにする。また、単元の最後には、①伝記をたくさん読んでどうだったか。②「偉人誌」を作ってみてどうだったか。③この学習のできるようになったことは何か。の3観点で振り返りを行う。そうすることで、自分の活動を客観的に振り返り、自己肯定感とメタ認知能力を高めさせていきたい。

4. 全体指導計画 (12時間扱い)

次	時	主な学習活動	○教師の支援 ☆評価 (方法)	
第一 次	1	着語読みをし、伝記がどんな文章か知る。 ・着語読みを行う。 ・伝記の特徴を捉える。	○伊能忠敬の写真を見せ、知っていることなどを共有させながら関心をもたせる。 ○着語読みをして内容の大体を捉えさせるとともに、伝記にはどんなことが書かれているのか特徴をおさえる。 ☆伝記は、「その偉人の会話や行動、心情などその人の人生が書かれている」という特徴を理解することができる。(知発言・日記)	伝記の 並 行 読 書 ↓ ↓ ↓
	2	教師モデルと出合い、単元の見通しをもつ。 ・「偉人誌」にはどんなことが書いてあるのか、どんな情報が必要か考える。 ・学習計画を立てる。	○教師モデルを提示し、本単元のゴールを伝える。 ○教師モデルには何が書かれているか、教科書の情報からどんな情報が必要になるのか対話を通して確認する。 ☆単元の見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。(知発言・日記)	

	3 4 5	<p>教科書を参考にしながら、伊能忠敬の「偉人誌」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット、紙どちらで作成するか決める。 ・時を表す言葉や年齢を手がかりに、伊能忠敬の人生を年表に表す。 ・伊能忠敬の人物像や生き方を踏まえて、自分の考えを編集後記にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットで作成する児童は、枠ありのものか自分で一から設定するか選択させる。 ○紙で作成する児童は、表入りのもの・罫線が入っているもの・白紙など、自分の書きやすいものを選択させる。また、白紙で書く児童の中で字をまっすぐ書きたい子もいると考えられるため、罫線入りの下敷きを用意しておく。 ○年表や編集後記が自力で書くことが難しい子どもには、教師モデルのふきだしにどんなことが書いてあるか注目させ、教師と対話しながら、考えを整理する。 ☆時を表す言葉や年齢を手がかりにしながら年表にまとめ、偉人の生き方について自分の考えをもつことができる。 (㊦偉人誌・日記) 	
	6	<p>伊能忠敬の「偉人誌」を用いて1回目の共有を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライティング・カンファレンスを行う。 ① 偉人誌をつくる上で工夫したことは？ ② できばえ何点？ ③ つくって困ったことある？ ④ 伊能忠敬の魅力を一言で表すと？ ・ほめほめタイム ・フリートーク 	<ul style="list-style-type: none"> ○ライティング・カンファレンスの質問項目に沿って、自分の考えを伝えさせる。 ☆伊能忠敬の「偉人誌」を基に、人物像や物語を想像し、自分の生き方について考えを広げることができる。(㊦発言・日記) 	
第二次	7 8 本時 9 10	<p>一人一偉人決め、「偉人誌」の作成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書や「週刊朝日漫画世界の偉人シリーズ」、図書館から借りた本を活用して、伝記を読んだり、「偉人誌」を書いたりする。 ・興味ある偉人を一人選ぶ。 ・タブレット、紙どちらで作成するか決める。 ・伊能忠敬で作成したものと教師モデルを参考にしながら作成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットで作成する児童は、枠ありのものか自分で一から設定するか選択させる。 ○紙で作成する児童は、表入りのもの・罫線が入っているもの・白紙など、自分の書きやすいものを選択させる。また、白紙で書く児童の中で字をまっすぐ書きたい子もいると考えられるため、罫線入りの下敷きを用意しておく。 ○年表や編集後記が自力で書くことが難しい子どもには、教師モデルのふきだしにどんなことが書いてあるか注目させ、教師と対話しながら、考えを整理する。 ☆自分が選んだ偉人について事実と感想や意見などを区別しながら年表にまとめ、偉人の生き方について自分の考えをもつことができる。(㊦偉人誌・日記) ☆進んで伝記を多読して多様な生き方を知り、自分の生き方について考えを広げようとしている。(主 読書カード・日記) 	
第三次	11	<p>自分が選んで作成した「偉人誌」を基に2回目の共有を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライティング・カンファレンスを行う。 ⑤ どうしてこの偉人を選んだの？ ⑥ なんで？ ⑦ 偉人誌をつくる上で工夫したことは？ ⑧ できばえ何点？ ⑨ つくって困ったことある？ ・ほめほめタイム ・フリートーク 	<ul style="list-style-type: none"> ○ライティング・カンファレンスの質問項目に沿って、自分の考えを伝えさせる。 ☆「偉人誌」を基に、その偉人の人物像や物語を想像し、自分の生き方について考えを広げることができる。(㊦発言・日記) 	
	12	<p>学習のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の学習の振り返りを行う。 ① 伝記をたくさん読んでどうだったか。 ② 「偉人誌」を作ってみてどうだったか。 ③ この学習でできるようになったことは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○3観点で振り返りを行うことで、自分の活動を客観的に振り返り、自己肯定感とメタ認知能力を高めさせ、自己の成長に気付かせる。 ☆単元全体の学習について振り返ろうとしている。(㊦発言・ノート) 	

5. 本時の指導（8／12）

（1）目標

自分が選んだ偉人について事実と感想や意見などを区別しながら年表にまとめ、偉人に対することや生き方について自分の考えをもつことができる。 【思考力、判断力、表現力等】（2B（1）ウ）

進んで伝記を多読して多様な生き方を知り、自分の生き方についての考えを広げようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

（2）展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問 ・子どもの反応	○教師の支援 ☆評価（方法）
3 35 7	1. 学習計画を確認し、本時の学習問題を確認する。 偉人を一人決めて、「偉人誌」を作ろう。 2. 伝記を読み、偉人を決める。／「偉人誌」を作成する。 伝記を読んでいく中で、一人一偉人が決まった子から「偉人誌」作成を行う。 [タブレットで作成] ①枠あり ②自分で一から設定する [手書きで作成] ①表入りのもの ②罫線が入っているもの ③白紙 ・私はこの偉人の伝記を読んでみようかな。 ・昨日はこの偉人だったけど、この人も気になるな。 ・ぼくはタブレットで作ろう。 ・この偉人に合うイメージの色は青色かな。 3. 国語日記を書く。 ◎今日学習してみてどうだった？ ・一偉人が決まりました。 ・今日は三人の偉人の伝記を読みました。 ・年表づくりが少し進みました。 ・明日は年表を完成させられるかな。	○子どもたちがすぐに確認できるように、学習計画を教室に掲示しておく。 ○「偉人誌」を作成していくにあたっての必要事項①時を表す言葉に注目する②年表には自分の考えや共感したところなどを書く③自分がその人の生き方を読んでどう考えたかを書くの3つをすぐに確認できるように教室掲示しておく。 ○自力で書くことが難しい子どもには、教師モデルを参考にしながら教師と対話し、考えを整理する。 ○タブレットで作成する児童は、①②から選択させる。 ○手書きで作成する児童は、①②③から選択させる。 ○白紙に書く児童には、罫線入りの下敷きを用意しておく。 ○偉人のイメージに合わせて紙や吹き出しに使う付箋紙の色も選択できるように、何色か用意する。 ○ペンの種類も自由に選択させる。 ☆事実と感想や意見などを区別しながら年表にまとめ、偉人の生き方について自分の考えをもつことができる。 (㊦偉人誌・日記) ☆進んで伝記を多読して多様な生き方を知り、自分の生き方についての考えを広げようとしている。(主読書カード・日記)